

シンハンリュウ
[連載] 深韓流からみた韓国事情 第12回
深韓流 — 韓流の語源と韓流文化の考察 —

法政大学大学院経済学研究科教授 朴 倥玄*

1. はじめに

「なぜ韓流と呼ばれるようになったのですか？」

実は、手紙や講演会などで、韓流の語源について質問を受けることは少なくないのです。読者の皆様の中には、なぜ韓国の大衆文化のことを「韓流」と呼ぶようになったのかについてすでに知っている方も多いかと思いますが、まず韓流という言葉の語源について、少し説明させていただきたいと思います。

通常、一国の大衆文化は、先進国から発展途上国へと流れることが多いのですが、実際1980年代まで、世界各国で輸入している大衆文化—音楽、映画、海外ドラマ—の多くは、アメリカのものでした。

ところが、1980年代後半になると、一部の地域では、アメリカからの一方的な大衆文化の流れと異なる現象がみられはじめました。例えば、中南米の諸国では、アメリカで作られたドラマよりも、国内や近隣諸国で制作されたドラマをよくみるようになりました。地理的に、文化的に近い国のドラマや音楽などを互いに受け入れるようになったのです。

1990年代には、南米だけではなく、アジアでもそれに似た現象がみられるようになりました。1980年代後半から日本のドラマがアジアで紹介されるようになり、高い支持を受けました。ところがいつの間にかその人気ぶりをはるかに超える形で、韓国のドラマや映画、音楽が、アジアで注目されるようになったのです。そのスタートをきったのが中国でした。

2. 新造語「韓流」

韓流という概念は、「1997年前後に生まれた韓国ドラマ、映画など韓国の大衆文化が人気を集めるようになった現象」を意味しますが、この語源は、韓国の文化観光部の企画によって生まれて名称で、中国北京の韓国系放送企画会社によって提案された概念です（韓国放送振興院2001；イ，2002）。

それは1999年にさかのぼります。1999年、韓国の文化観光部は、韓国歌謡曲の広報用レコードCDを企画制作し、世界主要国の放送局、雑誌出版社、大学、クラブおよび在外韓国公館などに配布しました。1億5千万ウォンの予算で、中国語バージョン6千枚、日本語3千枚、英語3千枚のCDがそれぞれ制作されました。英語と日本語バージョンのタイトルは「Korean Pop Music」でしたが、中国語バージョンには「韓流— Song from Korea」というタイトルがつ

* オフィシャルホームページ URL : <http://pakusensei.com/>

けられました（東亜日報「韓流の始まりは？」2011年10月20日）。これが韓流の始まりなのです。

当時、中国語バージョンの音楽企画を担当したのは株式会社メディアプラスで、1997年から北京音楽放送局を通じて「ソウル音楽室（漢城音楽庁）」という韓国歌謡曲の紹介番組（1時間）を制作し、週1回、主要5地域（北京、上海、天津、青島、広州）において定期的に中国語で放映していました。この番組は、韓国歌手のアルバムが中国政府の正式な認可を受けて発売されるようになるまで、韓国の最新音楽に公式的に接することができる唯一のチャンネルであったのです。

この会社のソン・ジャンヒョンチーム長によると、当時、広報レコードのタイトルに関する企画会議の中で、北京電影学院演出学科の某教授から、中国の若者の間で新たな流行傾向を総称する「寒流」（他の文化が鋭く入り込むという意味でも使われる）という新造語の「寒」を「韓」に変えようという意見が出され、最終的に、アルバムのタイトルを韓流と決めたとのことでした。

その後、新造語の韓流は「ソウル音楽室」を通じて、北京、上海、広州など中国の主要10都市の約5億人の視聴者へ届けられました。1999年秋には、H.O.T、アン・ジェウク、ユ・スンジュンなどの歌が入った「韓流－Song from Korea」というタイトルのCDが中国全域に配布されました。

さらに、中国の各種メディアは韓国の大衆文化の流行現象を報道する際に、韓流というタームを使うようになったことは、韓流が中国大陸における流行エンターテインメント－音楽、ドラマ、ファッション、映画など－を通称する一般名詞として普及するのに貢献したともいえるでしょう。

2000年9月30日、中国の人民日報は、韓国歌手の大型コンサート開催を報道しながら、韓国音楽の流行という意味で韓流という新造語をはじめて掲載しました。

朝鮮日報（「文化輸出の原動力である感性のある人材を育てよう」2002年4月5日）、月刊朝鮮（「中国と東南アジアにおける韓流」2001年11月3日）によると、2000年2月にH.O.Tのコンサートが成功した直後、中国の新聞に「韓流は中国を強打した」というヘッドラインの記事が掲載されてから、韓流という概念は公式に使われるようになったのです。

韓流という概念以外にも、「韓風（ハンブン）」「韓潮（ハンジョ）」「韓熱（ハンヨル）」という概念も混合して使われていました（中央日報、2000年10月9日）。

多くのメディアでは、韓流が中国で作られたと報じていますが、実は、韓国の文化観光部による企画で生まれたのです。

3. 「韓流」の意味

韓流という概念やその意味、使い方については、様々な議論があります。例えば「韓国大衆文化の熱気」（北京青年報「韓流熱気」2001年10月24日）、「韓国大衆文化のブーム」（中央日報「中国の韓流熱風再び生き返るのか？」2001年8月5日）、「大体韓国の大衆文化を意味する概念」（アン、2001）、「中華圏で流行する韓国の大衆文化の熱風」（朝鮮日報「チョン・ジンホン－黄河を荒らす韓流－」2001年8月9日）などです。

これらの意味を含め、中国メディアの中では「韓国の流行が押し寄せてくる」（朝鮮日報「韓国歌手の中国公演、一時期の人気だったのか？」2000年7月17日）という意味で作られたと報じられています。また「韓国の流行音楽」（朝鮮日報「中国における韓国歌謡の熱風（キム・ユンホ社長）」2000年6月28日）という意味でも使われています。

また、韓流という表現以外に、「ハアンチュウ（合韓族）」という表現がありますが、これは、韓国の大衆文化に憧れる韓国ファンの集団を中国および台湾で呼ぶ名称で、彼らの特徴は、韓国音楽を歌い、ダンスを真似し、韓国スタイルを追求することを最高の価値とすることにあります（イ、2002）。

いずれにしても、韓流は韓国の一般的文化ではない大衆文化の熱風をさす意味で広く使われるようになり、中国だけではなく、ベトナム、モンゴル、シンガポール、日本など幅広い地域に広がる韓国の大衆文化をさす概念として定着したのです。

その後、韓流という商標がついた韓国商品・文化が人気を集め、服装、デザイン、映画、ドラマ、囲碁、サッカーなどあらゆる分野で使われるようになりました（北京晩報「韓流神話は持続的なのか」2001年11月30日）。

中国のインターネットサイト「シナ」では、携帯韓流、自動車韓流、資本韓流、韓流経済、IT韓流などの概念も使われるようになり、韓国国内でも金融韓流、韓流農業をはじめ、学問韓流という概念まで使われるようになりました（朝鮮日報「チェ・ヨンジンー学問も韓流ー」2001年7月27日）。

また、大衆文化に限らず、韓国の風、韓国の波浪という意味で幅広い分野で使うようになったのですが、イギリスのファイナンシャルタイムで初めて Korean Wave（朝鮮日報「韓国経済ダイナミック。日本が見習うモデル」2002年3月21日）と表記されるようになりました。その後、韓流は、英語では「Korean Wave」という表現が一般的になりました。要するに、勢いという意味で様々な分野で使われるようになったのです。

2001年4月18日、中国青年報が「韓流が日本を沈ませるのか？」という表題で日本の歴史教科書問題に関する韓国の抗議内容を扱いました。ホ、イ（2002）は、この表題が、韓国の流行エンターテインメントという狭い意味を超えて、韓国もしくは韓国文化それ自体を通称する代名詞として使われていることを指摘しています。

今や誰もが韓流という言葉を使っていますが、この言葉はこのような背景のもとで生まれてきたのです。韓国観光公社が韓流を韓国語の発音により近い「はんりゅう」と呼ぶように広報活動を行った結果、今では「はんりゅう」というのが普通ですが、テレビ局の方針によって呼び方が異なるケースもあります。例えば、NHKでは「かんりゅう」と読みます。

私は、韓流を通じて韓国文化をもっと深く知っていただきたくて、このコラムを始めましたが、読者の皆さんは韓国の文化を楽しんでおられるでしょうか？今回は前回に続き、食べ物に関するソクダム（ことわざ）をご紹介します。

4. 食べ物のことわざ

前回、ご紹介しました「トック（お餅＝떡）」に関するソクダム以外に、「ジユク（おかゆ＝

죽)], 「クル (蜂蜜=꿀)], 「コギ (お肉=고기)], 「タク (鳥肉=닭)], 「ソ (牛=소)], 「クォン (きじ=꿩)], 「ビョ (稲=벼)], 「ムル (水=물)], 「コン (豆=콩)], 「パツ (あずき=팥)], 「ゾッ (乳=젖)], 「ベ (梨=배)], 「스박 (スイカ=수박)], 「게살그 (マンシュウアンズ=개살구)], 「도토리 (ドングリ=도토리)], 「yak (葉=약)], 「소금 (塩=소금)], 「살 (米=쌀)], 「팜 (栗=밤)」などに関することわざがあります。

「우물에 가서 숯을 찾는다」

(ウムルエ／ガソ／スンニョン／チャンヌンダ)^(註1)

直訳すると、「井戸へ行って、お焦げ茶を探す」という意味ですが、「すべての物事には手続きと結果があるのに、急いでいる」「とてつもなく短気で、結果を急ぐ」という意味でよく使われます。

前回にも書いたように、韓国人の気質の1つは短気ということですが、短気であることを比喩的にいうときに、よく使うことわざです。

井戸というのは、古くから女性のたまり場で、地域コミュニティーの中心的な役割を果たしてきました。そこで水を汲み、洗濯物や食事の支度に使うのです。

韓国のスーパーマーケットに行ったことがある方の中には、日本では売っていない食材をみてびっくりされる方も少なくないようですが、その1つが「おこげ」です。

韓国人は格別におこげが大好きです。わざとご飯を焦がして、こげたご飯にお湯を注いで、お茶のように飲むのですが、そのお湯を「スンニョン (숯)」といいます。韓定食や石焼ご飯を食べる時に、最後にお湯が出て、そのお湯をご飯に入れて、少し間を置いて食べるという食事メニューは日本でも珍しくありません。そのおこげ茶は、取り合いになるほど、子供には人気なのです。

本来ならば、「井戸 (우물)」で「水 (물)」を汲み、「お米 (쌀)」を洗って、「ご飯 (밥)」を炊いた後、「おこげ茶 (숯)」を飲むのが手順ですが、井戸でおこげ茶を探すのはあまりにも急いでいるということになるのです。

「꿩 먹고 알 먹는다」

(クォン／モッコ／アル／モンヌンダ)^(註2)

直訳すると「キジを食べて、卵も食べる」ということで、一度に2つのことができ得をするという意味になり、日常生活や韓流ドラマでよく使われます。

例をご紹介します。親友の結婚式で、テーブルを囲んで飲んでいる時、新郎はとてもハンサムな人だったのですが、それだけではありません。大金持ちの息子で、結婚したら、親の会社のアメリカ支店へ勤務することになっていたのです。これは、『よくできました／「잘했군 잘했어」^(註3)』『달ジャの春／「달자의 봄」^(註4)』など、韓流ドラマでよく出てくる設定なのです。

そんないい条件の新郎と結婚した新婦をみて、周りは口を揃えてこのことわざをいうのです。なぜこのようなことわざが生まれたのかについてはいろいろな説がありますが、そのうちの

1つをご紹介します。

昔、春の雨が少ない時期には、山火事になることが多かったのですが、人々は、切り株や燃え残った木々を探しに山火事の跡地に行きました。そこでは、卵を抱いたキジをよく見かけたそうです。他の鳥は卵を抱いていても、危険にさらされると逃げますが、キジだけは自分の卵を抱いてその場を離れなかったそうです。それはいかなる危険な時でも子供を守ろうとするキジの本能だといわれています。だから、キジを獲ったら必ず卵もついてくるということになりますが、食べ物が少なかった時代に、キジを獲った立場からしてみれば、1つを取ることで2つの利益を得ることになります。

「식은 죽 먹기」

(シグン／ジユク／モッキ)^(註5)

直訳すると、「冷めたおかゆを食べること」ですが、「とても簡単なこと」という意味で日常生活でもよく使われることわざです。とくにこのことわざは、新聞の見出しでもよく見かけられるフレーズです。

今や日本でも少女時代やKARAなど、K-POPは大変な人気ですが、実は今のアイドルと20年前のアイドルとでは大きな違いがあります。今では、ほとんどのアイドルはあらゆるトークショーやお笑い番組にも積極的に顔を出していますが、これは20年前の状況とは対照的です。昔は、アイドル＝歌手を歌番組以外で見る事は、今に比べれば遥かに少なかったのです。

これにはいろいろな理由がありますが、最も大きな理由の1つはアルバムの売上の変化です。20年前は人気アイドル＝100万枚以上の売上ということが珍しくなかったのですが、インターネットの普及で、アルバムは以前に比べればそれほど売れなくなりました。そこで、膨大な投資で長年に渡り訓練されデビューするという韓国のアイドル養成システム上、彼らは歌以外にも、収入源が強く求められているわけです。だから、歌番組だけではなく、ドラマ、お笑い番組をはじめ、トークショーまで出演するのです。

このような状況を語っている時、昔のトップ・アイドルなら100万枚以上はとても簡単だという意味で、このことわざは新聞やインターネット記事の見出しによく使われています。

おかゆを食べる理由の1つは、おなかに優しいからでしょうが、それは消化にいいという意味でしょう。熱いおかゆに比べて、冷たいおかゆは、どれほど食べやすいのか想像がつくでしょう。

「꿀 먹은 병어리」

(クル／モゲン／ボンオリ)^(註6)

直訳すると、「蜂蜜を食べたもののいえない人」ですが、「事情を知っていても、言えない立場」の時によく使われています。

今や、韓流スターが自分の声を声優の声で吹き替えることは考えられないのですが、昔は、とくに女優は声優の声に替えられたようです。

1960年代に、韓国で絶大な人気を集めていたオム・ヘンラン (엄 행란) という女優がいました。韓国の吉永小百合ともいえるでしょう。実は、オム氏の声がとても素敵だったので、コ・ウンジョン (고 은정) という声優の声を借りていたのです。とてもきれいな声にイメージされていた当時、彼女は公式の場ではほとんど発言しなかったという有名な話があります。そのような時に、よくこのことわざをいいます。

なぜこのようなことわざが生まれたのでしょうか？それは「蜂蜜」を巡る先生と生徒とのバトルから生まれたと言われていました。

『ファンジニ／「황진이」^(註7)』『チャクペ相棒／「짜꿌」^(註8)』『風の絵師／「바람의 화원」^(註9)』など韓流の時代劇をみるとよく登場する、庶民の子弟に漢文を教える私塾がありますが、それは「ソダン (서당)」と呼ばれる日本の寺子屋に似たものでした。

そこで生徒を教える先生を「フンジャンニム (훈장님)」と呼びますが、あるフンジャンニムの好物は蜂蜜で、いつもつぼの中に隠してこっそりと食べていたのです。いつも何を食べているのか不思議に思っていた生徒たちは、先生に聞いてみました。その時、先生は、それは菓で、子供が食べるとお腹が痛くてとてもつらい思いをすると、絶対につぼの中を触らないようにいったのです。ところが、先生の不在の時に、生徒たちはその中を見て、それが蜂蜜だということがわかったので、全部わけあって食べたのです。しかし、食べたものの、フンジャンニムが戻ってきた時の怒る顔を想像したら、どうすればいいのか怖くなりました。その時、ずる賢い1人の生徒が名案を出しました。みんな倒れて死んだふりをしたのです。先生が戻って、倒れていた生徒たちをみてびっくりした時、1人の生徒が起き上がって、「先生がいない間に、隠していた蜂蜜を探して全部食べてしまったのです。それで僕らは死ぬかもしれません」と答えたら、先生はなにもいえなくなりました。そこから、このことわざは生まれてきたといわれています。

韓国人にとって蜂蜜は贅沢な食べ物の一つなのです。とくに、二日酔いに「クルムル (꿀물)」という蜂蜜をお湯で溶かして飲みますが、今やコンビニエンス店でもお茶と一緒に売られている商品の一つです。それほど大事にしていた食べ物を盗られてもなんにも言えないという時に使われるのです。

「찬물도 위 아래가 있다」

(チャンムルド／ウィ／アレガ／イッタ)^(註10)

直訳すると、「冷たい水も上下がある」という意味ですが、「どんなことでも順番があるから、その手順に従うべき」という意味で、日常生活でもよく使われ、韓流ドラマのセリフにもよく登場します。

『不屈の嫁／「불굴의 며느리」^(註11)』でも、このようなセリフが出てきます。夫を亡くした三代の嫁を巡るホームコメディードラマですが、早くに夫を亡くし、長年寡婦となっていた母、キム・ボヨン (김 보연) の前に、初恋の人、イ・ヨンハ (이 영하) が現れ、互いに好きな気持ちを確認し、再婚することを決心して、子供たちに伝えました。そこで、「韓流ドラマならではの」のあり得ないストーリー展開が繰り返されるのです (笑)。なんと母の娘の彼氏の父

が母と結婚しようとしていた初恋の人だったのです。つまり、親同士、子供同士が結婚しようとしていたのです。一歩も譲らない二世帯カップルの結婚騒動。そこで野次馬根性のおばさん、イム・ヘジン (임 예진) が登場します。そして娘、イ・ハヌイ (이 하니) とその彼氏に向かって、このセリフを言いながら、結婚を親に譲るように説教するのです。

なぜこのようなことわざが生まれたのでしょうか？その背景には、年上を重んじる韓国人の儒教精神があるのではないのでしょうか？

これまで何度も解説しましたが、韓国には年上を重んじる儒教の精神が残っています。その中で、年齢の序列は絶対的なものでもあるわけです。社会全体が、特別な理由がない限り、年上に譲ることを根強く求めているのです。

粗末で、どこからでもとれる冷たい水でさえ、順番があるのだという意味で、このことわざは、韓国人の年齢による上下関係が日常生活の中で、いかに大事なのかを表しているのです。

余談ですが、私が日本にきて一番驚いたことの1つが、年が違って友達になれるということでした。日本人の読者は「えっ？」と驚くかもしれませんが、韓国では年が違う友達は珍しいほどです。そのためか、まず会うと互いの年齢を確認して、上下関係を決めて、それによって互いの呼び方も変わります。以前のコラムでも説明しましたが、年上が男性なら、「ヒョン (형)」もしくは「オッパ (오빠)」と呼ばれます。ヒョンとは男性が目上の男性を呼ぶときに、オッパとは女性が目上の男性を呼ぶときに、それぞれ使います。一方、年上が女性なら、「ヌナ (누나)」もしくは「オンニ (언니)」と呼ばれます。ヌナとは男性が目上の女性を呼ぶ時に、オンニとは女性が目上の女性を呼ぶ時に、それぞれ使うのです。そして年下は性別に問わず、「ドンセン (동생)」と呼ばれます。

「冷水」という言葉は、「普遍的な材料でどこでもすぐ手に入るもの」で、それは「平凡なもの」もしくは「粗末なもの」を表しています。そのようなものでさえ、順番がしっかりとありますという意味で、このことわざが生まれたのでしょう。

話は横道にそれますが、「冷たい水」に関して次のようなことわざがあります。

「냉수 마시고 속 차려라」

(ネンス／マシゴ／ソク／チャリョラ)^(注12)

直訳すると、「冷水を飲んで、気をしっかり持ちなさい」という意味で、韓流ドラマのセリフでもよく登場します。実現可能性が低い目標や恋愛対象に向かって夢中になっている人に対して、現実をよくみて目を覚ましなさいという時によく使われるのです。

「울며 겨자 먹기」

(ウルミョ／ギョジャ／モッキ)^(注13)

直訳すると、「泣きながら、からしを食べる」という意味ですが、本当はやりたくないのに、やむを得ずやらなければならない時によく使われます。

先日、韓国プサンの実家に戻った時に、テレビの前で、あまりにも久しぶりにチャン・ドン

ゴン (장 동건) をみて、びっくりしてしまいました。久しぶりのテレビドラマの出演ですが、どんなに年をとってもかっこいいですね (笑)。

さて、今韓国では、『紳士の品格／「신사의 품격」^(註14)』というドラマが話題ですが、なんといつでも、主人公のチャン・ドンゴンと『オン・エアー／「온 에어」^(註15)』でおなじみのキム・ハヌル (김 하늘) の演技です。

『紳士の品格／「신사의 품격」^(註16)』は6月27日に放映されたSBS週末ドラマで、主人公を務めるチャン・ドンゴンは、とても毒舌でクールな役を演じています。彼のような性格を持っている男を韓国語で「カチルナム (까칠남)」といいます。この数年、韓流ドラマの主人公の多くがカチルナムを演じています。例えば、『個人の趣味／「개인의 취향」^(註17)』のイ・ミンホ (이 민호), 『シークレット・ガーデン／「시크릿 가든」^(註18)』のヒョン・ビン (현 빈) がその代表です。

韓国語で、カチルナムとは、「ざらざらしてつやがない」という「カチルハダ (까칠하다)」という動詞と「男」を意味する「ナム (남)」を合わせて生まれた造語です。

話を『紳士の品格／「신사의 품격」^(註19)』に戻しますと、チャン・ドンゴンは、友達キム・スロ (김 수로) を片思いしているキム・ハヌル (김 하늘) に片思いしています。韓流ドラマでよく登場する三角関係です。

ところが、キム・ハヌルは恥ずかしくて、本当はとても好きなのに片思いしているキム・スロに自分の気持ちを伝えられず、好きでもないチャン・ドンゴンへチョコレートを渡ししながら、愛を告白するシーンが出てきますが、このような時に、このことわざはぴったりなのです。

「다 된 밥에 재 뿌리다」

(タ／デン／バベ／ジェ／プリダ)^(註20)

直訳すると、「出来上がった白いご飯に灰をかける」という意味ですが、「うまくいってほぼ完璧に出来上がりそうな時に、最後のちょっとしたことで、それがダメになる」時によく使うことわざなのです。

韓流ドラマ『妻の誘惑／「아내의 유혹」^(註21)』で、とても嫌な性格を演じる主人公キム・ソヒョン (김 서형) は、ビョン・ウビン (변 우민) と再婚してうまくいっているようにみせかけます。しかし元恋人ともめたことがあって、それが再婚相手の家にばれてしまうのです。その後、元恋人が彼女の会社へ訪ねてきた時に、彼女はこのようなことわざを言うのです。「これから新しい夫とうまく行こうとしている時に私の前に現れて邪魔だ!」という意味なのです。

少し古い映画ですが、韓国で、チャン・ジン監督の『知り合いの女／「아는 여자」^(註22)』という映画がありました。主人公は野球選手で、9回、負けていたゲームを挽回しようとしていたのですが、ボールを客席に投げて、試合に負けてしまうのです。ほぼ勝ったに違いない状況でしたが、最後にとんでもない行動で、試合は台無しとなりました。そのような時に、このセリフがいわれるのです。

ご飯は真っ白であるべきですが、そこに黒い炭の粉がかけられたことを想像してみてください。白と黒を象徴するものを例えることで、いかにダメージが大きいのかを表しているのです。

「고기는 씹어야 맛있고 말은 해야 맛이다」

(ゴギヌン／シボヤ／マシゴ／マルン／ヘヤ／マシダ)^(註23)

直訳すると「肉は噛む時が味で、話はする時が味だ」ですが、「必要な言葉や行動は必ず起こさなければならない」という意味で、日常生活でよく使われます。

韓国人は「面白い話＝作り話」がとても好きで、今でも若者の間には、口から口へと伝えられている面白い話がたくさんあります。それを「ジェミインヌンイェギ (재미있는 얘기)」といいます。一般の大衆の間に話題となっている談話は、テレビのお笑いの番組でもよくネタとして取り上げられ、コントをするぐらいです。

「ヒキガエル新郎 (두꺼비 신랑)」という寓話をご紹介します。昔、年をとった老夫婦がヒキガエルを息子として育ててきました。近所に大臣が住んでいましたが、ある日、ヒキガエルは大臣の娘のことが好きになり、結婚をしたいからおばあちゃんに話をまとめて欲しいと頼んだのです。もし結婚できないのなら死んでしまうとまでいったので、おばあちゃんは仕方なく大臣の家を訪ねました。

しかしいくらなんでも自分から結婚話を持ち出せなかったのですが、結局話してみると、大臣の娘3人のうち、末子が結婚を受け入れたのです。そして結婚したヒキガエルは人間に生まれ変わって幸せになったという話です。

私が学生時代には、この寓話をよく聞かされ、自分が正しいと思っていたら、それを必ずいうべきということを教えられていました。

韓国人は、日本人に比べると、物事をずいぶんとストレートにいう傾向が強いのですので、時にはそれが人を傷つけることもあるでしょうが、一方では正義感の強い姿にも写るでしょう。そのような姿を描くのも韓流ドラマの1つの役割なのかもしれません。

「닭 잡아 먹고 오리발 내 밀다」

(タク／ジャバ／モッコ／オリバル／ネミンダ)^(註24)

直訳すると「鶏を捕まえて食べた後、アヒルの足を出す」という意味ですが、悪いことをやったにもかかわらず、それを否定するような言動をする人を批判するときによく使われるのです。

このようなことわざが生まれた背景にはいろんな説がありますが、そのうち1つの説をご紹介します。

昔、庶民の間で鶏は健康食としても人気が高かったのです。参鶏湯を夏に食べるのも健康にいいということからうまれたのです。

昔、ある村に、他人の鶏をこっそり盗んで食べていた人がいました。鶏を盗まれた飼い主が一生懸命に鶏を探しているうちに、鶏を盗んだ犯人を捕まえました。ところが、その犯人はそれを否定したので、今食べている肉はなんだと責めると、それは「アヒルの足」だといったのです。明らかに犯人なのですが、証拠がないためになんともし難かったという民話なのです。

『宮廷女官－チャングムの誓い－／「대장금」^(註25)』でもチャングムの育ての父が母に内緒でいろいろ悪いことをして、それが育ての母にばれるときも、きっぱりと否定する場面がたくさん

ん出てきます。そのときに育ての母はこのことわざをセリフとしていうのです。

また、韓国の政治問題を取り上げた『レディ・プレジデント－大物－／「대물」^(註26)』でも賄賂をもらったのに、その罪を追求されると、知らぬふりで否定する場面がでます。その時に、取り調べていた人がこのことわざをいいます。その他にもたくさんのドラマでこのことわざが使われています。

5. 終わりに

韓流の普及によっていろいろな面で韓国に興味を持つようになった方がたくさんおられると思います。ドラマやK-POPを楽しむだけではなく、韓国を旅したり、韓国語を学んだりして、韓国の文化や歴史に興味を持つようになった方もいるでしょう。

このように、日々、韓流を楽しみながら、韓国を深く知っていただくために、この場を借り、韓流ドラマを題材にして、韓国のことわざを取り上げてきました。

それが私にとっての「深韓流」なのですが、この回をもって最後にさせていただきたいと思います。読者の皆さんからいただきました手紙やご意見は今後、また違う形でお答えできればと思います。最後までご愛読ありがとうございました。

注

(注1) 「ウムルエ」は「井戸へ」、「ガソ」は「行って」、「スンニョン」は「おこげ茶」、「チャンヌダ」は「探す」をそれぞれ意味します。

(注2) 「クォン」は「キジ」、「モッコ」は「食べて」、「アル」は「卵」、「モンヌダ」は「食べる」をそれぞれ意味します。

(注3) 2009年3月14日～8月2日、MBCで放映された40部作のドラマです。チェリム (채림, イ・カンジュ役), オム・キジュン (엄기준, チェ・スンヒョン役), キム・スンス (김승수, ユ・ホナム役), キム・ジョンファ (김정화, ナ・ミラ役), チェ・ダニエル (최다니엘, イ・ウンヒョク役), ソ・ヒヨリム (서효림, ハ・ウンビ役), イ・ハンフィ (이한휘, ミンシ役), チョン・ホジン (전호진, ハン・サンフン役) などが出演しています。

(注4) 2007年1月3日～3月15日、KBSで放映された22部作のドラマです。チェリム (채림, オ・ダルジャ役), イ・ミンギ (이민기, カン・テボン役), イ・ヒョンウ (이현우, オム・キジュン役), コン・ヒョンジン (공형진, シン・セド役), イ・ヘヨン (이혜영, ウィ・ソンジュ役) などが出演しています。

(注5) 「シグン」とは「さめた」、「ジユク」は「おかゆ」、「モッキ」は「食べること」をそれぞれ意味します。

(注6) 「クル」は「蜂蜜」、「モグン」は「食べた」、「ボンオリ」は「ものを言えない人」をそれぞれ意味します。

(注7) 2006年10月11日～12月28日、KBSで放映された24部作の歴史ドラマです。ハ・ジウォン (하지원, ファンジニ役), キム・ヨンエ (김영애, ベクム役), キム・ジェウォン (김재원, キム・ジョンハン役), リュ・テジュン (류태준, ビョクゲス役), ワン・ビンナ (왕빛나, プヨン役), チャン・グンソク (장근석, キム・ウンホ役), ジョン・ミソン (전미선, ジン・ヒョングム役) などが出演しています。

(注8) 2011年2月7日～5月24日、MBCで放映された32部作の歴史ドラマです。チョン・ジョンミョン (전정명, チョンドゥン役), ハン・ジヘ (한지혜, ドンヨ役), イ・サンユン (이상윤, クイドン役), ソ・ヒョンジン (서현진, ダリ役), カン・ジソプ (강지섭, ジンドウク役), イ・ムンシク (이문식, チャン・コクジ役), カン・シンイル (강신일, ソン・チョシ役) などが出演しています。

(注9) 2008年9月24日～12月4日、SBSで放映された20部作のドラマです。パク・シンヤン (박신양, キム・ホンド役), パク・ヒョククォン (박혁권, イ・インムン役), ムン・グンヨン (문근영, シン・ユンボ

ク役), ムン・チェウォン (문 채원, ジョンヒャン役), アン・ソクファン (안 석환, シン・ハンピョン役), ベ・ス빈 (배 수빈, ジョンジョ役), キム・ウンス (김 응수, ジャン・ビョクス役), リュ・スンリョン (류 승룡, キム・ジョニョン役) などが出演しています。

- (注10) 「チャンムルド」の「チャン」は「冷たい」, 「ムル」は「水」, 「ド」は「も」を, 「ウィ」は「上」, 「アレガ」の「アレ」は「下」, 「ガ」は「が」を, 「イッタ」は「ある」を, それぞれ意味します。
- (注11) 2011年6月6日からMBCで放映されている120部作のホームドラマです。シン・エラ (신 애라, オ・ヨンシム役), 칸·부자 (강 부자, チェ・マクヨ役), キム・ボヨン (김 보연, チャ・ヘジャ役), イ・ハヌイ (이 하니, キム・ヨンジョン役), 박·윤재 (박 윤재, ムン・シンウ役), キム・ヨンゴン (김 용건, ムン・セジン役), イ・フン (이 훈, ムン・ジンウ役), イム・ヘジン (임 예진, キム・グムシル役) などが出演しています。
- (注12) 「ネンス」は「冷水」, 「マシゴ」は「飲んで」, 「ソク」は「中」, 「チャリョラ」は「取り戻す」をそれぞれ意味します。
- (注13) 「ウルミョ」は「泣きながら」, 「ギョジャ」は「からしを」, 「モッキ」は「食べること」をそれぞれ意味します。
- (注14) 2012年5月26日からSBSで放映されている20部作予定のドラマです。チャン・ドンゴン (장동건, キム・ドジン役), キム・ハヌル (김 하늘, ソ・イス役), キム・スロ (김 수로, イム・テサン役), キム・ミンジョン (김 민중, チェ・ユン役), イ・ジョンヒョク (이 종혁, イ・ジョンロク役), ユン・セア (윤 세아, ホン・セラ役), ユン・ジニ (윤 진이, イム・メアリ役), キム・ジョンナン (김 정남, 박·민스크役) などが出演しています。
- (注15) 2008年3月5日～5月15日, SBSで放映された21部作のドラマです。パク・ヨンハ (박 용하, イ・ギョミン役), キム・ハヌル (김 하늘, オ・スンア役), イ・ボムス (이 범수, チャン・ギジュン役), ソン・ユンア (송 윤아, ソ・ヨンウン役), イ・ヒョンチョル (이 형철, ジン・サンウ役), ハン・イェウォン (한 예원, チェリ役), ホン・ジミン (홍 지민, イ・ヘギョン役) などが出演しています。
- (注16) 上記(注14)を参照。
- (注17) 2010年3月31日～5月20日, MBCで放映された16部作のドラマです。ソン・ヘジン (손 예진, 박·게인役), イ・ミンホ (이 민호, チョン・ジンホ役), キム・ジソク (김 지식, 한·찬리올役), ファン・ジヘ (황 지혜, キム・インヒ役), チョ・ウンジ (조 은지, イ・ヨンソン役), 칸·신일 (강 신일, 박·첸한役) などが出演しています。
- (注18) 2010年11月13日～1月16日, KBSで放映された54部作のドラマです。ハ・ジウォン (하지원, 킬·라임役), ヒョン・ビン (현 빈, 키ム· Джуウォン役), ユン・サンヒョン (윤 상현, オスカ役), キム・サラン (김 사랑, 윤스ル役), イ・ピルリプ (이 필립, 이ム·지ونس役), ユ・インナ (유 인나, 이ム·아ヨン役), イ・ジョンソク (이 종석, ソン役), キム・ジスク (김 지숙, ムン·ヨンフン役) などが出演しています。
- (注19) 上記(注14)を参照。
- (注20) 「タ」は「すべて」, 「デン」は「出来上がった」, 「バベ」は「ご飯に」, 「ジェ」は「灰」を, 「ブリダ」は「かける」をそれぞれ意味します。
- (注21) 2008年11月3日～2009年5月1日, SBSで放映された129部作のドラマです。チャン・ソヒ (장 서희, ク·ウンジェ役), チェ・ジュンヨン (최 준용, ムンジョンワンフ役), ビョン・ウビン (변 우빈, チョン·キョビン役), キム・ソヒョン (김 서형, シン·エリ役), イ・フェファン (이 재황, 민·곤우役) などが出演しています。
- (注22) 2004年6月25日に公開された韓国映画です。ジョン・ジェヨン (정 재영, ドン·チソン役), イ・ナヨン (이 나영, 한·이온役) が主役として出演しています。
- (注23) 「ゴギヌン」は「肉は」, 「シボヤ」は「噛んで」, 「マシゴ」は「味で」, 「マルン」は「話は」, 「ヘヤ」は「すれば」, 「マシダ」は「味だ」をそれぞれ意味します。
- (注24) 「タク」は「鶏を」, 「ジャバ」は「捕まえて」, 「モッコ」は「食べて」, 「オリバル」は「アヒルの足を」, 「ネミンダ」は「差し出す」をそれぞれ意味します。
- (注25) 2003年9月15日～2004年3月30日, MBCで放映された54部作の歴史ドラマです。イ・ヨンエ (이 영애, チャングム役), チ·ジニ (지 진희, 민·지온호役), ホン・リナ (홍 리나, チェ·グミョン役), イム・ホ (임 호, チュンジョン役), 이ム·히원식 (임 현식, 칸·도덕役), グム·ボラ (금 보라, 나주·테크役), ヤン·ミギョン (양 미경, 한·베기온役), キョン·ミリ (권 미리, チェ·ソングム役)

などが出演しています。

(注26) 2010年10月6日～12月23日, SBSで放映された24部作のドラマです。ゴ・ヒョンジョン (고현정, ソ・ヘリム役), クォン・サンウ (권상우, ハ・ドヤ役), チャ・インピョ (차인표, カン・テサン役), イ・スギョン (이수경, チャン・セジン役), イ・スンジェ (이순재, ベク・ソンミン役), イム・ヒョンシク (임현식, ハ・ボンド役) などが出演しています。

参考文献

- アン・ソンベ「韓流。持続する熱風なのか？すぐ終わる寒風なのか？」『民族芸術』2001年8月号
- イ・ミンジャ「中国の改革期における青少年文化分析：韓流を中心に」『東亜研究』第42集, 2002年2月
- 韓国放送振興会「中国放送産業の状況と相互交流方案に関する研究」2001年11月
- 月刊朝鮮「中国と東南アジアにおける韓流」2001年11月3日
- 中央日報, 2000年1月20日
- 中央日報, 「言葉。言葉。言葉」2000年10月9日
- 中央日報「中国の韓流熱風再び生き返るのか？」2001年8月5日
- 朝鮮日報「韓国歌手の中国公演, 一時期の人気だったのか？」2000年7月17日
- 朝鮮日報「韓国経済ダイナミック。日本が見習うモデル」2002年3月21日
- 朝鮮日報「中国における韓国歌謡の熱風 (キム・ユンホ社長)」2000年6月28日
- 朝鮮日報「チェ・ヨンジン—学問も韓流—」2001年7月27日
- 朝鮮日報「チョン・ジンホン—黄河を荒らす韓流—」2001年8月9日
- 朝鮮日報「文化輸出の原動力である感性のある人材を育てよう！」2002年4月5日
- 東亜日報「韓流の始まりは？」2011年10月20日
- 北京青年報, 2001年10月24日
- 北京晩報「韓流神話は持続的なのか」2001年11月30日
- ホ・ジン, イ・チハン「韓流現象と韓中文化交流」『地域発展研究』第2巻第3号, 2002年9月